

お気楽革命

白井 京月

はじめに

この詩集は「ロバート劇場」(2011)に続く白井京月の詩集、第2弾である。

イヴァン・イリイチの落とし穴に落ちた2011年。そこからのロバート氏の独白を、その七転八倒をコミカルにエディットしてみた。

読者の皆様には、トンデモナイ世界を、そして喜怒哀楽を味わっていただきたい。

「お気楽革命」がフィクションなのかノンフィクションなのかは後世の歴史家に委ねよう。では、存分に、急がずに、この詩集を味わってください。

平成二十五年師走 日本にて 白井京月

目次

- 第1部 ロバート空間の誕生
 - ロバート空間の作り方
 - ロバート宣言
 - ロバート空間1号
 - ロバート空間2号
 - ロバート空間3号
 - ロバート空間4号
- 第2部 ロバート空間の消滅？
 - ロバート空間消滅
 - 妖精の悪戯
 - ロバート問題
 - 彷徨うロバート
- 第3部 ロバート空間のその後
 - ロバート空間の自然
生き方
 - 幻影のメルクマール
 - 妖精ごっこ
 - 眼差しを鍛える
- 第4部 お気楽革命
 - 「お気楽系」とは何か？
 - お気楽文化の十ヶ条
 - お気楽は三文の得
 - お気楽革命
 - お気楽革命とその敵
 - お気楽革命・勝利宣言

第一部 ロバート空間の誕生

ロボット空間の作り方

焼き芋を二つ食べよう
ホッカホッカがいいよね
皮は食べなくていいさ
ゴミは台所のゴミ箱へ

ジャズを聴こう
画集を広げながら
ソファで横になろう

それから風呂に湯を張る
ジャズを聴こう
画集を眺めながら
一人の部屋で

風呂に入る前に服を脱ごう
下着もだ
風呂には好きなアロマを入れよう
入る時は足からだ

肩まで風呂に入ったら
目を閉じて
夢を思おう

そうすると
プッと屁が出る

水中にガスの空間ができる
これこそがロバート空間だ

ロバート空間はいい匂いだ
そして数秒で消えてしまう

これが正しいロバート空間の作り方
ジャズのかわりに、ボサノバでもいい

ロバート宣言

ロバート空間。

それはデカルト的な座標軸で把握できるような3次元の空間では断じてない。それは物質でもシステムでもない。もちろん、測定や観察、あるいは管理の対象などであってはならない。

当然ながら、自己管理、目標管理、健康管理などとは縁がない。社会はそういう類のものを押し付けてくるが断固として拒否ないし無視する。そもそも 現代社会の科学、医学、教育、経済といった類の宗教は歴史的に見て最悪の部類に属している。そういうものとは関わらないのがロバート空間だ。

しかし、現代の悪は強力だ。市民を完全に無力化し、システムの一部にしてしまっている。

ロバート空間は社会の一員でも市民でもない。もしもそう見えるなら、それは演技力によるものだろう。

ノストラダムスが予言した大王。それは、ロバート空間に他ならない。1999年ではなかったが、私は今日この事実を確信するに至った。

この病弱な肉体とクレイジーな精神が放つ「一撃」に期待せよ。

戦略や計画などという腐った言葉は使うまい。
そういう言葉は破棄しなければならない。

あらゆる権威を完全に失墜させる力。
それがロバート空間だ。

「どんどんとこっちへ来るよ」

「何が」

「ロバート空間！！！」

怖い？ 楽しい？ 嬉しい？

地球上の70億のゾンビ達よ覚悟せよ。
ゾンビに明日はないのだ。

渾身の一撃。

それがロバート空間のイニシエーションだ。

神との約束だ。

死の条件だ。

私も漸く老年となり自在の境地に入った。
あるべき生活とは何か、などと悩む必要はない。
やりたいことをやれば良いだけだ。

躊躇いを捨てなさい！

宿命を受け入れなさい！

覚悟を決めなさい！

目覚めなさい。

ここは「ロバート空間」だ～。

ロバート空間1号

ロバート空間は破壊する
現代という退屈で憐れな空間を破壊する
教育という悪の装置を破壊する
制度という幻想を破壊する
労働という悪徳を破壊する
自立を阻み依存を強いる思考様式を破壊する

現代という貧しく特異な空間に服従する者など同類ではない
彼らは観察の対象であり破壊の対象に過ぎない
社会的人格を繕い自我を放棄した者に言葉などいらない

ロバート空間は過去の復活を願うものでもない
現代という絶滅に邁進する空間を破壊すること
それがロバート空間の使命にして宿命なのだ

ロバート空間
そこでは計算も戦略も不要だ

ただ存在すること
何もする必要はない
何もしない方が良いだろう

努力などという言葉はロバート空間には存在しない
矛盾と混沌の正当性を示そう
現代の幼稚な科学などママゴトにも劣るのだと

空間は衝突するだろうか
衝突は回避されるだろうか
そんなことは問題ではない

問題はロバート空間を生きるか
苦痛と無力さと安全の世界に引きこもるのか
それだけの話だ

不確実性回避とは過去についての評価上の過誤だ
あるいは倒錯した評価関数だ

気がつこう
みんなが勉強するから馬鹿になるということに
みんなが働くから貧しくなるということに
これらは証明されている事実なのだ

みんなが頑張れば頑張るほど不幸は増大するのだ
根本的な錯覚を植え付けられているのだ

自然を資源とみなすような経済人は地球の敵だ
人を資源とみなすような経済人は人類の敵だ
なんと恣意的で悪意に満ちた操作的概念だろうか

回避せよ
無視せよ
離脱せよ
今すぐにここで

ロバート空間2号

汚れ、醜く、臭い腎臓結石のような心の玉よ
そんな心の玉は洗っても磨いてもムダ、ムダ

そんな心の玉は重いハンマーで叩き割るしかないよねん
粉々になるまで叩き割ろうねん
さらさらになるまで叩き割ろうねん
さらさらきれいな心の粉
汚れてる粉は深く地中に埋めようねん

お。宇宙を席捲するロバート空間
それは、人称とは無関係やねん

心の玉を粉々にするロバート空間
ナノ・秒のレーザービームのストリーム

破壊するのよん
貴方を

粉々にするのよん
貴方を

さあ、足を手を首を洗っておこう！！
まあ、洗わなくても良いけどねん

あんたさあ、ロバート空間に来る？
うっふっふっ

もう手遅れだわよ

貴方はロバート空間を見てしまったし～

貴方はロバート空間に触れてしまったし～

さあ、粉々にして、あ・げ・る

うふっ、うふっ、うふっ

ロバート空間3号

光も、物質も、エネルギーも無い空間だって？
それ、それこそ、ロバート空間だ
いや、それがロバート空間だ

その空間を素粒子が通り抜け、
遅れて光が降り注いだ

ロバート空間は膨張し引き裂かれた
光りの二乗の速度で他の空間に侵入したのだ

ロバート空間とは一つの生命である

生命とは何か
これを説明すると長くなる
宇宙は一つの生命
銀河も一つの生命

意識だって？

まだ、自己を信じているのかね？
脳が作り出す幻想作用に依存するのかね？

一つの空間は分割できない
しかし、複数の空間の共存は可能なのだよ

この宇宙は一つの空間だが

そこには無数の空間があつて
ほら、あなたの身体の中にも
あなたは実は空間なのだ
あなたは実は宇宙なのだ
あなたは言葉では表せない

さあ、気がつきましたか？

ロバート空間4号

何もかも無くなった時代
ただ乾いた笑いに飢えていた
食卓の上には生きた蛙
猫を抱きながら、蛙を茹でる

どうせ死ぬのなら笑いが欲しい
時計は左回りが流行だ
自動車は凹ませるのがファッション
ダダはそこに生まれ
ダダはそこにある

反社会的などというレッテルは糞
生きのびたことへの讃歌
煙草に火をつけたら
それは花火だった

ここはパリ
日本のパリ
パリとは何かという問いなど許さない
意味を求めることは許可しない
そういう偶像が廃墟を作ったのだ

廃墟を飾ろう
廃墟を生きよう
生産システムに蓋をしよう
それよりも焼き菓子だ

どろどろしたコーヒーだ

聖地はゴミ焼却場
すべてを灰にしてしまえ

戦車も
軍服も
自動小銃も

汚い海で泳ごう
泳いでいるのは汚い体だ
砂浜には花柄のビニールシート
散乱する酒の瓶

ビルの鍵はどれも壊れている
お前の頭も壊れている
俺の頭も

7種類の薬を飲む男
映画にはならなかった
あのロバート劇場で
主役はロバート

ありふれた名前はありふれている
名前よりもあだ名が大切だ
名前は国家が独占する

味な男は魚を食べる
魚は鱻に限る

アジアジ

女は脱げ
裸になれ
ただし美しい女に限る
そして恥らえ

この世界に名誉などない
この世界に価値などない

あるのは純粹感情
そして純粹欲望

不自然な動物
ダダはただそこにある
ダダは今も生きている

不死
それがダダ

第二部 ロバート空間の消滅？

ロバート空間消滅

なんということだ！！

ロバート空間は悪魔が用意したブラックホールだった
どうすれば脱出できるというのか

妖精が来る
妖精がやって来る

さあ、地球に戻りましょうと囁く

何もない死か
苦しい生か

迷っている時間はない
私は妖精の背中に乗った

ふわふわして温かい
風が気持ち良い

「私はどこで間違えたのですか」
「貴方は何も間違えてはいない」
「この爆発で世界は変わったの」

地球が遠くに見える
意識が広がって行く
身体から力が抜けて行く

私は1枚の布になる

やがて石になる

小さな隕石は地球の中で光り
流れ星となり
消えた

妖精の悪戯

ロバート空間が消滅しただって？

そんな馬鹿な！！

ロバート空間とは、宇宙に存在しない空間の総称だ

存在しないものが消滅する

まったく理解できない

これは妖精の悪戯だ

妖精は悪戯が大好きだ

あれは、この俺様を地球に引き戻すための策略だったのだ

俺様はロバート街道を通り抜け

ロバート革命を成功させ

ロバート大陸を発見した

そしてロバート爆発が起こり

ロバート大陸はロバート群島となった

これが後期ロバートだ

そして今、ロバート問題に取り組む私がいる

一人喫茶店で頭を抱えている私がいる

妖精よ

妖精ちゃんよ

妖精さまよ

どうか私をロバート空間に戻して欲しい
地球の空気は好きになれないんだ

大好きなアレをあげるからさあ

ロバート問題

ロバート問題。それは21世紀最大の数学的難題である。ロバート空間が消滅したとされる現在、ロバート帝国の再建のためにロバート將軍はロバート群島を拠点として、日々精力的に活動している。ロバート連合と呼ばれる企業群、すなわち、ロバート建設、ロバート交通、ロバート食品、ロバート通信、ロバート銀行などのロバート財閥は、新しい人類世界の建設に向けて知恵を絞り、汗を流しているのだ。

しかし、問題は言語にある。今の地球上の言語には語彙が不足しているのだとロバート博士は言う。つまり、少なくともこの4倍の語彙がなければ、ロバート問題は解けない。そのためロバート財団は優秀な人材を集めてロバート辞典の編纂いやいや開発に取り組んでいるところだ。

ロバート問題とは何か。それを知るにはまず、ロバート検定に合格しなければいけない。この検定は年に4回、ロバート学会の主催で行われる。受験料はロバート金貨4枚。これに合格すれば、ロバート時計が授与される。

ほかにもいろいろな特典がある。例えば、ロバート食堂を無料で利用できる。ここの名物はロバート冷麺とロバート饅頭だ。また、ロバート旅館の宿泊が無料になる。ここには有名なロバート温泉がある。ただ、間違ってもロバート浴場と呼んではならない。ロバート欲情と間違えられと官憲の介入を招くからだ。また、ロバート旅館では毎晩のようにロバート音頭による祭りがある。ここではロバート酒造特製の吟醸酒がふるまわれる。なお、ノンアルコールも用意されているので、アルコールが苦手でも心配する必要はない。

ロバート旅館はロバート山脈の麓にあり、周りにはロバート牧場が広がっている。そこにはロバート神父の教会もある。もともとロバート將軍は宗教を禁じているので、教会と言っても神のいない教会だ。それは建築芸術の一つであるとともに、ロバート神父もまた、ロバート劇団の役者に過ぎない。

ロバート群島はもともとロバート大陸という地球上の六大大陸の一つだったのだが、あの大爆発によって山は崩れ、地は裂け、あっという間に群島になった。都市は壊滅し、消滅した。その後の復興の様子は涙なくて語れない。ロバート群島に来る観光客はみなロバート霊園に行く。そこで、小さな声でロバート聖歌を歌う。海の見える断崖にある、この見放された喜びの黄色い丘で、人は空を見上げ、星を探すのである。

ロバート検定には受験資格がある。身長が3メートル以下であること。体重が300キロ以下であることなど、意味不明な条件が多数あるのだが、詳しくはロバート原則を参照していただきたい。

さて、ロバート検定に関する記述が長くなってしまったが、そもそもロバート問題とは何なのか。実はこの問題を知ることができるのは、ロバート検定に合格したロバート博士達だけなのだ。もちろん私はロバート検定に合格したロバート博士の一員だ。従って、ロバート問題とは何かを知っている。

しかし、実に残念なのだが、この問題を外部に漏らすことは、ロバート規定によって禁止されている。閉鎖的だと思われるかもしれないが、一步間違るとロバート戦争が勃発するリスクがあるので、これは仕方のないことだ。

ロバート帝国が目指しているのは、外部に敵を作らない、ニュータイプの国家だ。外部とは地球上の国家に限定されない。地球外の生命体も含めて敵を作らないというのが基本方針である。そのためにロバート神話があり、ロバート条約がある。これらはロバート役場の俊英が、膨大なロバート調査と精緻なロバート分析から作成した黄金の文章だ。ロバート検定に合格したいならば、これらの文章は暗記していなければならぬのは当然だろう。

ロバート問題には、さまざまな異聞がある。しかし、噂を信じてはいけないというのは歴史の教えるところだ。さあ、正義感に溢れた真のエリートたちよ、ロバート検定に挑戦しようではないか。そして、ロバート問題に取り組もうではないか。それはきっと、高貴で意義のある生き方となるだろう。

さあ、まずはロバート航空を利用して、ロバート群島に行き、ロバート博士に会おう。パスポートはいらない。言語能力はある。もちろんロバート言語の。

彷徨うロバート

体調が絶望的だ

存在するだけで楽しいなんて誰が言った

何をしても楽しくないぞ

何がやりたいのかもわからないぞ

方位磁石の針はくるくると回転し

羅針盤は用を足さない

集中せよ

休め

とりあえず行動だ

よく考えろ

計画を練りに練れ

計画にこだわるな

人は好き勝手なことを無責任に口にする

こんなロバートは見たことがない

目が死にかけだ

生命を感じない

目的、意味、価値

そんなものを無視するのがロバートではなかったのか

いったいどこで汚染されてしまったのか

懸命になり、夢中になり、熱中する

それは楽しさの源泉だ

しかし、生活の不安が集中力を奪う

どうしたロバート

お前はロバート劇場の支配人だ

過去とは消えるものだ

追いかけてはいけないものだ

過去も未来も存在しない

存在するのは現在という一瞬のみ

役に立たない羅針盤など捨てなさい

実行しないであろう計画など捨てなさい

まして夢など追いかけないように

軽くなれ

身も、心も、財布も、体重も

ロバートは道化に賭けた

ならば、どこまでも道化に賭けなさい

新しい世界へ

続・ロバート劇場の世界へ

すでに土から緑色の芽が出ている

もっと愛を

もっと水を

もっと光を

地球という惑星の一個の生物

その奇跡に素直に驚こう

きっと誰かが笑ってくれる

第三部 ロバート空間のその後

ロバート空間の自然

他者の幸福を願うこと

願いは力になるだろうか

願いはどこに届くのだろうか

その思いは意識

その思いは生命

時間という流れの中で

なにかを感じ

眠り

夢を見る

空間で行為し

発話し

感情する

他者の幸福を願う

そこには連帯がある

そこには自然がある

愛は存在しない

罪はどこにもない

道徳と本能

回転し回転する星で

思いもまた転回する

いまはただ幸福を願う

生き方

夢があるのなら、夢を追いかけてよう
夢がないのなら、思いのままに生きよう

もしも不安があるなら、旅に出よう
旅に出るのが無理なら、ただ眠ろう

医者は死に方を教えてはくれない
自分で考えるのだ
最後のオールインだ

幻影のメルクマール

夢があるのなら、夢を追いかけてよう
夢がないのなら、思いのままに生きよう

もしも不安があるなら、旅に出よう
旅に出るのが無理なら、ただ眠ろう

医者は死に方を教えてはくれない
自分で考えるのだ
最後のオールインだ

妖精ごっこ

世界の本質はハチャメチャだ
真面目な文章など存在しない
いつも言葉はショートケーキ
苺の色が大事なのさ

ジョークなトークでモンローウオーク
大聖堂の壊れた時計
鳩に小判とお賽銭

あの娘もこの娘もピーヒャラリ
祭りだ、祭りだ、たてまつり
妖精ごっこでヒラヒラで
お願い雨は降らないで

もう、あの街には帰らない
この星空が気に入ったの
山の酸素が大好きなの
濁った街には、もう住めない

こっちへおいでと囁こう

眼差しを鍛える

眼は、外界を受像するためだけの器官ではない

眼は、そこから光線を発し、外界へ発する能動的な器官だ

だから、眼差しを鍛えるのは大切なことだ

時に厳しく、時に優しく

自在に眼差しを使えるようになれば

自在に生きることができる

今、眼差しに力はあるか

キラキラしているか

静寂はあるか

眼は心の鏡

嘘はつけない

第四部 お気楽革命

「お気楽系」とは何か？

「お気楽系」とは脳天気のことではありません。もちろん、能天気な人に「能天気をおやめなさいと言うつもりもありません。そんな干渉はよくない。また、脳天気な人ならば、この文章を読むこともないでしょう。

「お気楽系」とは、余裕のあるしなやかな構えです。おかしい成功幻想に駆られることも、精神世界に救いを求めることもありません。いわば、現代における成熟。それが、「お気楽系」です。

「お気楽系」から連想される言葉。それは「しなやかさ、自然な、自由な、生き生きした、みずみずしい」といったものです。あるいは「奔放な、余裕がある」といった言葉を付け加えてもいいでしょう。定義として曖昧だ、と怒られるかもしれませんが、真面目過ぎないというのもお気楽系の特徴なのです。

さて、なぜいま「お気楽系」なのか。これは、現代日本社会を分析したうえでの一つの結論です。いま、お気楽系が不足しています。そして、お気楽系が求められているのです。お気楽系が求められる背景には、以下のようなタイプの衰退があります。

1. 人生設計という保守的な考え方が破綻した。
2. 上昇志向の空気が薄まり、閉塞感が漂っている。
3. スピリチュアル・ブームにも陰りが見える。
4. おたく文化も行き詰まりを見せている。

生き方はいろいろあって当然です。むしろ多様であるべきでしょう。しかし、生き方の選択を間違えると自らを苦しめ、人生を楽しめなくなっ

てしまいます。「お気楽系」も一つの選択肢。決めるのは自分自身です。

では、お気楽でいられるための一番の条件。それは自信です。では、自信とは何でしょう。ある事柄についての自信ならともかく、漠然とした自信とは何でしょう。漠然とした自信とは、多少状況が変化しても生きて行けるという見通しがあることです。つまり、将来がたとえ予定通りにならないとしても、「なんとかなる」という楽観的な態度。これが自信なのです。

もちろん、根拠があるかもしれない。健康であったり、技能があったり、対人能力に優れていたりといったことも要因になるだろう。しかし、同じような能力、要因を持ちながら、同じような状況にありながら、自信が持てる人と持てない人がいます。それは単に、性格の問題なのでしょうか。答えはノーです。自信は思考トレーニングの賜物です。適切な思考を積み重ねることが自信に繋がるのです。

世界は常に不条理に満ちています。不公平も不平等も存在します。賄賂も犯罪も残忍さもあります。それは、受け入れ難いものですが、まずは、良い点にも目を向けて現状を受容することです。これは社会についてだけでなく、自分自身についても同じでしょう。

ある程度の寛大さをもって現実を受容したうえで課題を設定しない限り、いかなる批判や抵抗も望ましい結果を生むことはないのです。

繰り返しになりますが、お気楽の第一の条件は、適切な思考に基づく自信です。その基底には、現状の肯定的な受容がある。それは、決して批判精神を持たない「ことなかれ主義」ではありません。そうではな

く、このような態度こそが、より本質的で鋭い批判や、意味のある問題解決を可能とするのです

お気楽のはずが少し固い文章になってしまいましたが、少しずつ「お気楽系」についての考察を書いて行きます。冒頭の図は、お気楽系のポジションを示しています。読者の皆様のご意見をお聞かせください。よろしく願い致します。

2013年11月19日

お気楽文化研究所設立準備委員会代表
ジェイ・ロバート

※都合により図は掲載できませんでした。

お気楽文化の十ヶ条

■その1

まず、看板を出すこと。お金がないのでブログで十分。まあ、お気楽にはその辺りが相場だ。

■その2

研究といっても深刻に考えたのではお気楽にならない。学会のジャーナルに寄稿するなどという面倒なことはやらない。お気楽にはその辺りが相場だ。

■その3

お気楽とは「成熟した、しなやかな大人の構え」のことだ。しかし、所長がまだお気楽として認知されていないという現実がある。これを問題視することはタブーだ。お気楽で行こう。

■その4

基本的に宣伝活動はしない。お気楽になりませんか、と声は掛けない。ただ、お気楽になりたいな、という人が自然に集まるのが理想。戦略なんて、お気楽じゃないよね。

■その5

研究所は階層型組織ではない。リゾームだ。なに、リゾームが分からない？興味があればググって欲しい。まあ、お気楽で行こう。

■その6

お気楽は能天気ではない。自信と謙虚さがその持ち味だ。だから私も、いつか画期的な「お気楽論文」が書けると信じている。もっとも、構想はまだない。

■その7

世の中は広い。中には私に会いたいという人がいるかもしれない。私もそういう人が入歯、いやいやいれば会いたいと思う。人生とは出会いだと思う。

■その8

ストレスは大敵だが、ストレスがまったく無いというのもストレスだ。お気楽にもそれなりの緊張感はある。常に幸福では幸福は感じられない。お気楽はこのパラドクスを熟知している。

■その9

お気楽はユーモアを忘れない。ユーモアこそが、人生を美味しく生きるコツだ。お気楽な人生は美味しい。美食は許されて当然だ。

■その10

お気楽といっても、いろいろなタイプがある。お気楽にも多様性は大切だ。お気楽が一人いるだけで場は和む。そういう存在を目指したい。

ジェイ・ロバート

お気楽は三文の得

昔から、お気楽は三文の得という。

まあ、お気楽は損得にこだわらないので、何が得なのかはどうしても良いのだがね。

「早起きは三文の得。でも、三文って安くない？」という黒木瞳さんの名言があるが、そうではなく三つの得と理解した方が良い。では、どういう得なのか。それこそが、まず一つの研究課題なのである。

一. お気楽は健康に良い。

二. お気楽に生きると将来が不安になると思われるかもしれないが、その心配はない。お気楽だからだ。

ただし、中途半端なお気楽はキツイ。お気楽は揺れても良いが、揺れ過ぎてはいけない。加減が難しい。お気楽スマイルをキープしないとイケないのだと考えられる。

うむ、三つ目がわからん。誰か教えて欲しい。

お気楽革命

人類の大きな変化
自我という幻想を脱ぎ捨て
社会というシステムを破棄する

お気楽に生きるとは何か

それは無思慮ではなく超越だ
現実ではなく神秘だ
安逸ではなく強さだ

戦いを放棄するのも、また戦いだ
お気楽は強い意思だ
お気楽は漲る自信だ

さあ、時は来た
自我を超えた貴方は
宇宙そのものだ

本性がいま
大いなる帰還を果たそうとしている

怖れることはない
死は、死ではない

飛びなさい
無限の空間に向かって

溢れる愛の泉の中へ

人類の未来は
貴方の中にある

お気楽革命とその敵

俺の「お気楽革命」を読んだ権力システムの一翼を担う公務員氏は言った。

「フロイドのいう、エゴ・インフレーションですねえ」

彼は俺が臨床心理学に関して専門家並みの知識を持っていることを知っている。

俺の立場が反精神分析であること、ドゥルーズ＝ガタリのエゴ・エコロジーを支持していることとは言わなかった。

俺は権力と直接対決するほどの阿呆ではないから。

込み上げる怒りを押し殺し、俺は彼の話聞いた。

彼は自分がいかに有能であり、不遇であり、かつそのことに納得しているかを述べた。

そして、その語りこそが、彼自身に内在する日の目を見ることのなかった欲動の残滓なのだった。

衰れた。

彼が、平凡であることの素晴らしさを説くほどに、彼の悲しみは深くなる。

「こういうものは発表しない方が良いでしょう」

その言葉の裏には、自分の言葉を発することのできない彼自身の苦悩と羨望、そして嫉妬がある。

精神の専門家が作った精神の管理社会。

一般人は精神の専門家の意見を鵜呑みにする。

これこそが「お気楽革命」の敵なのだ。

精神の専門家も、それを盲信する一般人も。

お気楽革命とは権力の移動ではない。

それは信念システムの更新なのだ。

それは自己との、そして自我との戦いであり解放なのだ。

そうだ、負けるはずのない戦いなのだ。

安心しなさい。

勝利は約束されているのだし。

お気楽革命・勝利宣言

私、お気楽文化研究所の所長である、ジェイ・ロバートは以下の通り宣言する。

私たちは、お気楽な形で誰にも報道されることなく、信頼で結ばれた強力なネットワークによって、日本の平和を完璧なものとする事に成功した。詳細は追って研究所が明らかにすることになるであろうが、ここに高らかに「お気楽文化革命」の成功を宣言する。

私たちの未来は、完全に明るい。

平成二十五年十二月十日(火)

お気楽文化研究所 所長 ジェイ・ロバート

筆者略歴

白井京月(しらいきょうげつ)ペンネーム

1961年、日本生まれ。男性。

1984年、某有名企業に入社。

2011年、同社を退職し独立。

本作は「ロバート劇場」(2011年)に続くISBNコード付出版の第2弾である。FC2小説やブログで多数の小説、詩、エッセイを発表中。

オフィシャルブログは「白井京月の文学秘密基地」

<http://ameblo.jp/kyougetsu-world/>